教育開発機構

NEWS LETTER 2023.Aug.vol.16

～心に学びの灯をともす～

2023年度ウォーミングアップセミナーを開催

入学式が終わりオリエンテーション期間も終盤となった4月6日(木)、新入生約1700名を43クラスに分け、学部・学科混成で4～5名のチームとしてワークショップ型のプログラムを行いました。高校生から大学生への「マインドセット」および、SD PBLなどの共同的な学習で不可欠な「対話」の訓練、そして対話を深めるには「知識が重要」であることを実感できる内容でした。

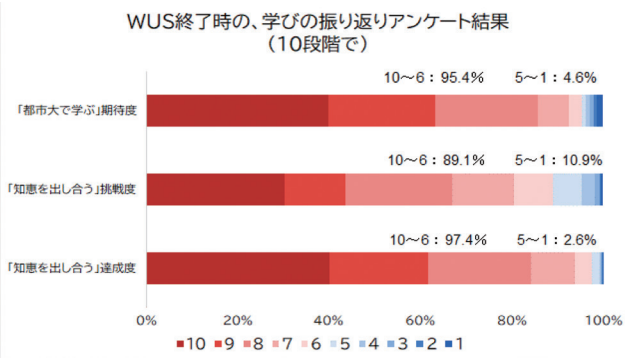
教育開発室 前室長　岸本　喜直

昨年度は全学部の学部3年生が一堂に集うSD PBL(3)が初めて開講された年度となりました。本学独自の取り組みとしてSD PBLを計画していた当時は全く想定していなかったコロナ禍に伴うオンライン対応も何とか乗り越えることができました。2023年度はほとんど学生がキャンパスに戻り、コロナ禍前の活気を取り戻しつつあります。本年度はSD PBLならびに関連の教育プログラムをあるべき理想の姿に持っていくことが教育開発室のミッションだと考えております。

さて、本題のウォーミングアップセミナーは当初SD PBLとともに構想されていたもので、新入生の心に学びの灯をともす初年次教育の入り口として設置するSD PBL(0)とも言えるプログラムです。ウォーミングアップセミナーはSD PBL(3)のノウハウを生かした学部学科横断の交流をコンセプトとしており、新入生に対して、本学の教育理念「ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる。」の初手とするものです。

教育開発室 室長　五艘　隆志

2022年度第4Qに実施したSD PBL(3)の企画・運営と併せ、本ウォーミングアップセミナーの準備が2023年1月以降の教育開発室の最大のミッションでした。SD PBLグランドデザイン研究会の先生方を中心としてプログラム検討や予算確保が既に行われていたため、同室は当日の円滑進行に向けたロジスティクスに注力できました。具体的にはSC/YC両キャンパスへの物品調達と資料配布、担当教員/学生アルバイトの手配依頼と事前説明、約1700名の新入生の教室/班分け、ゲストスピーカーの依頼、当日の欠席連絡窓口業務とセミナー進行、謝金やアルバイト代の支給事務などの業務です。関係教職員各位のご協力もあり、当日は滞りなく運営できました。担当教員の先生方や学生の皆様には、深く感謝申し上げます。初めての事で運営側の物理的・心理的負担は大きかったですが、学部横断のコンセプト、そして、下図の通り、これから始まる大学での学びやSD PBLのようなワークショップ型で進める科目に対する学生からの評判も大変良かったことから、その点は報われた思いです。



「都市大で学ぶ期待度」「知恵を出し合うワークの挑戦度」「知恵を出し合うワークの達成度」に対して10段階で振り返った集計の結果

「これから始まる大学での学びを深めるために、どのようなことを大切にしていきたいか」についての記述をテキストマイニングで可視化

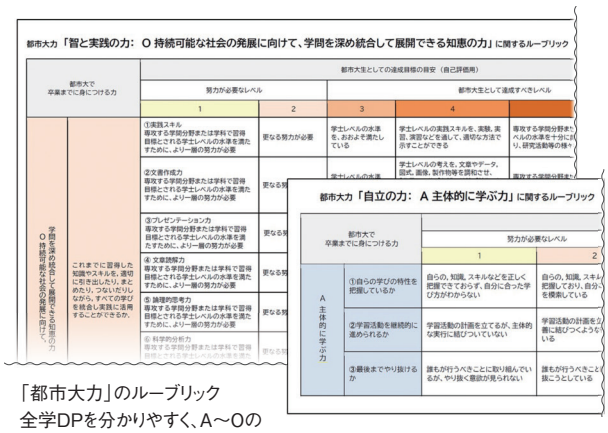
～全学ディプロマポリシーに基づく評価枠組～

「都市大力」を学生のキャリア形成に活かす TCU-FORCE リニューアルについて

学生支援部 部長　住田　暁弘

本学は、2016年度に文科省のAP（大学教育再生加速化プログラム）事業に採択され、他大学にさきがけて、学生の学修成果を可視化する「ディプロマ・サプリメント」（以下DS）を発行できる、オリジナルシステム「TCU-FORCE」（以下FORCE）※を開発しました。当時一部の学科から導入を始め、今は全学部の全学年で活用しています。DSでは、「定性情報」と「定量情報」で学修成果を可視化しています。

「定性情報」は、学生がアピールする内容（学習や留学実績、資格、課外活動など）をFORCE内でエビデンスとなる資料とともに担当教職員に示し、承認された内容が登録されます。「定量情報」は、適性検査や学業成績、研究発表や国際交流経験などを数値化し、「リテラシー基礎力」「コンピテンシー基礎力」「語学力」「基礎学修力」「専門学修力」「専門実践力」の6つの力で示しています。ただ、この「定量情報」の指標はFORCE開発後に作られた全学「ディプロマ・ポリシー」と必ずしも一致していないのではないか、との問題意識もあり、都市大の全学ディプロマ・ポリシーをベースに、卒業までにどのような力（知識・スキル・姿勢）が身についたかを分かりやすく示した『都市大力』を教育開発機構が中心となって設定し、FORCEをリニューアルしました。『都市大力』は5つの指標「自立の力」「問いの力」「価値創造の力」「協働の力」「智と実践の力」で表され、今年2023年度から新入生を対象に適用されています。

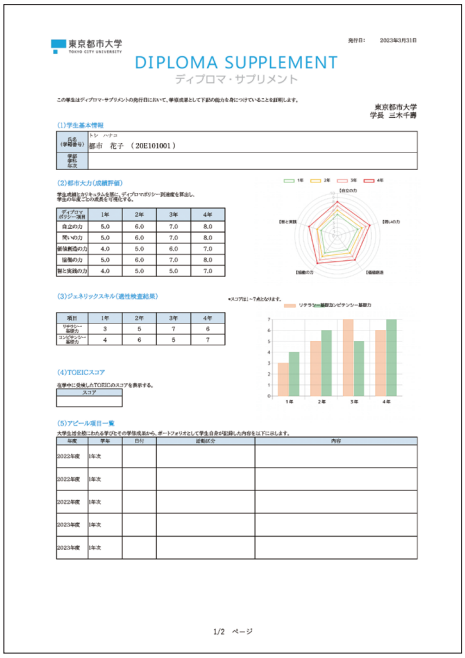


「都市大力」のルーブリック
全学DPを分かりやすく、A～Oの
15の力に分解

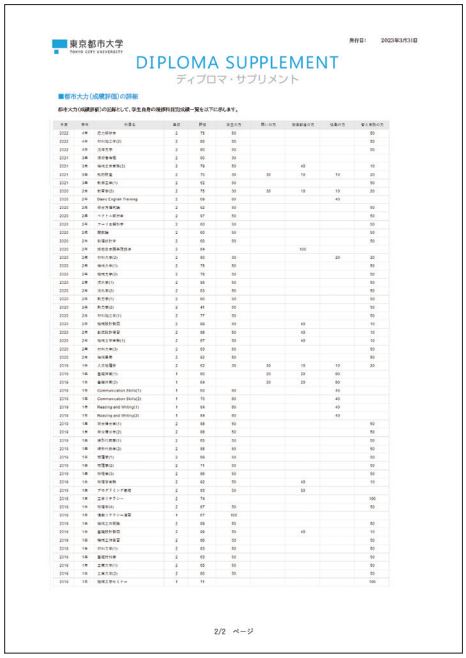
本学が文科省から高く評価されたのが、FORCEをキャリア形成支援に活用する視点でした。通常の大学は卒業時にDSを発行することを目指して作成していましたが、本学では大学1年時から都度、卒業時に求められる力に対して自分がどこまで身に付いているかを可視化する「プレDS」の仕組みを開発しました。1年生・2年生の全学生を対象にキャリア支援センターが主催するガイダンスで、半年ごとに「目標設定」「振り返り」「目標再設定」を体験させ、定着を図っています。学年が進行するにつれて自分の能力開発が進んでいることを実感できることは、「自己効力感」を高めるとともに、自分の目標や課題に気づきやすくなります。

先般政府から経済団体等に出された就職・採用に関する通知文に、学業成果等の評価を表す書類(例えば成績証明書や履修履歴等)を選考で利用すること、また、学生が提出する学修成果等に関する資料（例えばeポートフォリオやDS等）を採用面接等において積極的に活用することが明記されました。リニューアルした新FORCEは、この求めにも合致することを見越して開発しましたので、本学の教職員の皆様には、学生が有効に活用することを促していただけますようお願いいたします。

※TCU-FORCEは、Tokyo City University-FOR Career Enrollmentからの愛称



アピールポイントを説明しやすいように
印刷項目を選択できる



修得科目の一覧により身についた
知識や能力を説明できる

教学IRの現状と今後の課題

教学IRセンター センター長 向井　信彦

教学IRセンターは2022年9月に教育開発機構の一組織として新しく発足したセンターです。IRとは”Institutional Research”の略であり、教学IRとは「教育機関で経営戦略・財務計画などの立案に必要なデータを収集し分析することで、効率的な経営を支援する活動である」とされています。日本の教学IRは、一般に教学に関する業務のみを示すようで、1) DPを基にした学修目標の設定、2)科目とDPとの関係整理、3)アセスメントプランの策定、4)学修成果の可視化、5)可視化データの分析、6) 分析結果に基づく教育改善、7)情報公開の7ステップから成るとされています(ベネッセ i-キャリアによる)。

本学では、都市大力の設定や科目ルーブリックなどを策定することで1)、2)、3)は既に実行しており、また、学生カルテやTCU-FORCEなどを通じて4)の「学修成果の可視化」までは進んでいます。今後は5)と6)にあるように、「可視化データを分析」し、どのようにして「分析結果を教育改善に活かす」のかが課題となっており、現在、センターでは、課題の解決に向けて、種々検討をしています。

参考として米国の例を紹介します。

教学IRは、元々は米国の大学で提唱された概念であり、米国における教学IRの主要業務を通常・臨時という軸と学内・学外という2軸で整理すると、表のようになります。

米国におけるIRの主要業務

	通常	臨時
学内向け	・在学学生の管理 ・入学年次別学生の分析 ・継続在籍率の分析 ・卒業率の分析 ・履修科目の登録状況 ・学生の満足度調査	・学習成果の測定と分析 ・財務分析と収支予測 ・教員の配置と給与分析 ・事業戦略 ・教育プログラムの評価 ・外部評価
学外向け	・大学年鑑への情報提供 ・認証評価の報告書 ・連邦高等教育機関への情報提供	・資金補助団体への報告書 ・大学ランキングの分析 ・教育機関情報の分析

上記の表からも分かりますように、米国の教学IRは「財務分析と収支予測」や「事業戦略」など経営面からの分析も含んでいますが、上記のように日本の教学IRでは米国におけるIRとは概念の違いがあります。現状、日本の多くの大学では4)の「学修成果の可視化」までは進んでおり、5)の「可視化データの分析」に対して様々な取り組みが行われているようです。

今後のFDの予定

予定日時		内容
8月	24日(木)～25日(金) 2日間 終日	新任者研修 24日:都市大版ティーチング・ポートフォリオ(TP)作成ワークショップ 25日:発達障害・精神障害のある学生への適切な支援について ～多様性を学び、受け入れる～(学生相談室との合同企画)
9月	15日(金) 午前	全学FD・SDフォーラム 第1部「コロナ禍を乗り越えた今、学生のサポートをどうするか」
	20日(水) 昼休み	第2回 学生FD 懇談会(委任状の授与、授業改善に関する意見交換)
	20日(水) 3限	教育サポートスタッフ(TA・SA)後期研修
	20日(水) 17:30～18:30	第8回「学習科学」に学ぶ授業づくり支援FD －学生の理解や知識構築が深まる授業や科目のデザインとは－?
10月	6日(金)～19日(木)	第3クォーター相互授業参観週間
	20日(金) 17:30～18:30	第9回「学習科学」に学ぶ授業づくり支援FD －学びを継続的に支え、意欲を引き出す評価のあり方とは?－
11月	20日(月) 17:30～18:30	第10回「学習科学」に学ぶ授業づくり支援FD －活動理論から学ぶ深い学びを支える学習環境のデザイン－
12月	13日(水) 昼休み	第3回 学生FD 懇談会(学生による授業改善案の提言まとめ)
	1日(金)～14日(木)	第4クォーター 相互授業参観週間
2月	28日(水) 3限	第4回 学生FD 懇談会(学生による授業改善案の提言まとめ)
	開催日未定	学科主任対象TP活用ワークショップ
3月	8日(金) 13:00-15:00	教職員と学生FD委員との協働FD「授業改善セミナー」

シリーズ 知識集約型社会を支える人材育成事業

ひらめきプログラム運営委員会 委員長　鈴木　憲吏（理工学部　電気電子通信工学科）
「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりコーディネーター　杉浦　正吾（教育開発機構）

専用サイト
▶ https://hirameki.tcu.ac.jp

最新動画
▶ https://hirameki.tcu.ac.jp/general/1306/

ひらめきプログラムの現況 ～三期生を迎えて～

1. 受講生の現況

2021年度の開講から3年目となった今年、従来の理工学部・機械工学科、機械システム工学科、電気電子通信工学科の3学科に医用工学科、応用化学科、原子力安全工学科を加えた計6学科を対象に、探究総合問題を含む入試・国際イノベーターコースの希望者および、選抜試験合格者の206名を三期生として迎え入れました。現在、一期生112名、二期生193名と併せ、500名強の学生が当プログラムに参加しています。それと同時に、ひらめき固有の科目、すなわち「ひらめきづくり」「ことづくり」「ひとづくり」科目中のそれぞれ1～5のフルラインナップの講義が出揃う初年度ともなりました。

2. 「5つの力」から「6つの力」へ

昨年度までは前出の3つの力に、分野融合の「ものづくり」、文理横断・学習の幅拡張の「AI・ビックデータ・数理サイエンス」を加えた5つの力の取得を掲げてきました。今年度からは分野融合の学びに「くらしづくり」科目をラインナップし、新たに「6つの力」として展開し、本学で卒業までに身につける力として ディプロマ・ポリシーに基づき整理した評価枠組み（5つの都市大力※）との相乗を謳っています。詳細は本学「ひらめき・こと・ もの・くらし・ひと」づくりプログラムウェブサイトに最新の動画がリリースされていますのでぜひご覧ください。

※本誌P2参照

3. 今年の活動

学生に対しては、自主的活動のサポート（ひらめきラボ）、担当教員と一人ひとりの学生との間で1on1を継続的に行い、彼らのニーズと要望をしっかり受け止めながら、来年度以降の全学展開に向けた当プログラムの持続的マネジメント（当プログラムマニュアルの作成や、受講学生からのTA・SA育成など）を進め、学内への理解・協力推進に注力したいと考えています。当プログラムは全学3年生までの必修科目であるSD PBLとも親和性が高く、アクティブラーニング手法に興味のある方は、世田谷キャンパス1号館地下1F・ひらめき研究室に気軽にお越しいただき、意見交換などできれば幸いです。

	ひらめきづくり	ことづくり	ひとづくり
成果▷	創造と社会変革 ・アイディアをうみだす力	共創／アーバンデジタルトランスフォーメーション ・他分野をつなぎ実装する力 ・物語や流行を生み出す力	主体性を活かした挑戦と未来志向 ・グローバルで未来志向の判断力 ・多様な人々と共創する力 ・論理的かつ総合的に判断 ・自ら挑戦とマネジメントをする力
1	1年 探究活動とスタートアップ・ベンチャーマインドに触れ、その世界を知る	1年 ことづくり・仕組みづくり・ゲームチェンジ	1年 主体的な挑戦と未来志向の姿勢作り ～社会・メディア、政治・経済の視点～
2	1年 発想力を鍛え、アイディアの質をあげよう	2年 Society 5.0 と センサ計測 ・マイコン制御	2年 主体的な挑戦と未来志向の姿勢作り ～歴史・外交・文明の視点～
3	2年 エンジニア視点のハッカソン	2年 共創とアーバン・デジタルトランス フォーメーションUDX	3年 ヘルスリテラシーと防災安全教育
4	2年 多領域視点のアイディアソン	3年 メディア発信と双方向コミュニケーション	3年 教養ゼミナール（1） ※ひらめきPG固有講座開講
5	3年 ひらめき発見デザイン学	3年 リーダーとプロジェクトマネージメント	3年 教養ゼミナール（2） ※ひらめきPG固有講座開講

ひらめき固有の科目である「ひらめきづくり」「ことづくり」「ひとづくり」科目一覧表

5つの都市大力とひらめきプログラムの相乗

編集後記

今年度より新たに教育開発機構ニュースレター編集委員を仰せつかりましたFD推進センターの丸山と申します。恥ずかしながら私自身も、「斜め読み」そして「トピックスが気になればちょっと読む」程度でございました。ライトな読者であったからこそ、皆様の気を引けるような取り組みをしていきたいと思っています。

「型があるから型破り」と言いますように、これまでのニュースレターの良いところを継承しつつ、更に多くの皆様の目に留まるニュースレターになるよう励んでいきます。

理工学部 機械工学科　丸山

発行
東京都市大学 教育開発機構
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL：03-5707-0104（代） E-mail：efsg@tcu.ac.jp
お問い合わせ 担当事務局：教学支援課
NEWS LETTER編集委員会：（委員長）伊藤 通子　（副委員長）丸山 恵史　（委員）永江 総宜、河合 孝純、杉浦 正吾